

1. <マンホールから生活サイクルが見える>

調査のため、徹夜で採水をすることがあります。マンホール蓋を1時間あるいは2時間おきに開けては、丸一日かけて分析用の下水を採取するのです。

試料は持ち帰って色々な項目を分析するのですが、その場で見える水の流れや水温の変化だけからでも、一日の生活サイクルが良くわかります。

午後から採水を始めた場合、夕方くらいから夕食の支度で水量が増え始め、水温も多少上がってきます。夜に入ると水量は減ってきますが、水温が最も高くなるのが10時ごろです。お風呂の水が入って来るためです。

その後、真夜中になると、さすがに水温も下がり、水量もぐっと減少しますが、それでも流れが途絶えることはありません。「都会は眠らない」という感じがします。

さて、夜が白々と明けてきて、眠い目をこすりながら採水をする頃には、また水量が増え水温も上がってきます。朝の支度の始まりです。

その後は、天気なら洗濯が始まり、昼に近づくまで水量のかなり多い状態が続きます。

今年は、サッカーのW杯が開催されますが、日本代表チームの試合の時間は、皆テレビに釘つけになって、ほとんど下水が流れない状態になるのでしょうか。

< 村上 孝雄 >

※No. 1号 (2002/4/17) に掲載